

令和 5 年度

広島市平和推進基本条例第 8 条に基づく
平和の推進に関する施策の実施状況報告

令和 6 年 9 月
広島市

世界平和の推進

項 目	説 明
核兵器廃絶を目指した 取組の推進 (第7条第1号関係)	1 核兵器廃絶に向けた国内外の世論の醸成【市民局】(13,063 千円) (1) ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催 (6,528 千円) イギリス・ダラム市及びイギリス・ベルファスト市において、長崎市と共同で原爆・平和展を開催した。 〔イギリス・ダラム市〕 ・ 期 間：令和5年6月7日～令和5年9月10日 ・ 場 所：ダラム大学東洋博物館 ・ 入場者：約8,200人 〔イギリス・ベルファスト市〕 ・ 期 間：令和6年1月8日～令和6年2月28日 ・ 場 所：リネンホール ・ 入場者：約13,650人 (2) 国内原爆・平和展の開催 (5,274 千円) 東北地方2都市において原爆・平和展を開催した。 〔仙台市〕 ・ 期 間：令和5年7月7日～令和5年7月17日 ・ 場 所：仙台市戦災復興記念館 ・ 入場者：3,473人 〔山形市〕 ・ 期 間：令和5年7月28日～令和5年8月9日 ・ 場 所：山形市役所1階エントランスホール ・ 入場者：4,084人 (3) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム (41 千円) 国内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。令和5年度は、国立台中科技大学（台湾）の講座を新たに認定した。 ・ これまでの認定大学数：国内53大学、国外25大学 (4) 国内ジャーナリスト研修 (792 千円) 国内の若手ジャーナリストを対象に、被爆の実相や「ヒロシマの心」について総合的・体系的に学ぶ研修プログラムを開設し、研修の成果を報道や論説活動を通して広く国内外に発信してもらった。 ・ 期 間：令和5年7月28日～令和5年8月7日 ・ 参加者：10人 (5) 原爆写真展用資料の普及・活用 (428 千円) 原爆展を開催する国内外の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスターや映像資料等の貸出・提供を行った。 〔貸出点数〕 ・ DVD等映像資料、ポスター等：189点

項 目	説 明
	2 平和首長会議の充実強化【市民局】(46,186 千円) (1) 平和首長会議の活動展開 (41,893 千円) 平和首長会議加盟都市の市民、N G O 等と連携して世界恒久平和の実現を目指すため、平和首長会議行動計画に基づき、世界的な活動展開を図った。 〔実施内容〕 ・ 第 1 1 回N P T再検討会議第 1 回準備委員会への出席 ・ 核兵器禁止条約第 2 回締約国会議への出席 ・ 第 1 1 回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催 ・ 「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開 ・ 平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・二世の苗木の配布 ・ こどもたちによる“平和なまち”絵画コンテストの実施 ・ 海外役員都市関係者の受入れ 等 (2) 平和首長会議インターンシップ (2,191 千円) 平和首長会議の国内外の加盟都市から若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議の取組に対する理解を深めてもらうことにより、各加盟都市との連携強化を図った。 〔海外加盟都市〕 ・ 期 間：令和 6 年 1 月 1 7 日～令和 6 年 1 月 3 1 日 ・ 参加者：2 人 〔国内加盟都市〕 ・ 期 間：令和 6 年 1 月 3 1 日～令和 6 年 2 月 2 日 ・ 参加者：1 9 人 (3) 世界平和都市連帯の呼びかけその他 (2,102 千円) 平和首長会議への加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。 〔実施内容〕 ・ 未加盟都市への加盟要請 ・ 加盟都市の活動情報の収集及びホームページやソーシャルメディアでの公表 ・ 加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言文の送付 ・ 月刊メールマガジンの発行 等 3 広島サミット県民会議への負担金【企画総務局】(54,400 千円) 県、市及び経済団体等で構成する広島サミット県民会議に対し、G 7 広島サミット開催に際して、G 7 首脳を始め世界中の人々に被爆の実相への理解を深め、「ヒロシマの心」を共有していただくための平和発信に関する取組等に要する経費を負担した。 〔実施内容〕 ・ 各国首脳等による平和記念公園訪問の実施支援 ・ 国際メディアセンターでの平和発信 ・ G 7 広島サミット回想展の実施 ・ パートナーズ・プログラムを記念した植樹の実施 等

項 目	説 明
	4 核軍縮・不拡散に関する国際会議等の誘致【市民局】(134 千円) 国(外務省)に出向き、核軍縮・不拡散等に関する様々な国際会議の広島開催や、世界の政治指導者等の広島・長崎訪問の働きかけを要請した。 5 平和宣言の作成・発信【市民局】(1,816 千円) 平和宣言を作成し、広く国内外に発信した。 〔実施内容〕 ・ パネル(和文、英文)の作成、掲示 ・ 読み上げ動画(日本語、英語)の作成及びホームページでの発信 ・ 外国語8か国語(スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語)への翻訳とホームページへの掲載 ・ 平和宣言文の作成、配布及び送付(和文・英文:各1万2,000部、点字:250部等) 6 国際平和シンポジウムの開催【市民局】(2,478 千円) 市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信を目的に、朝日新聞社との共催によりシンポジウムを開催した。 ・ 期 日:令和5年7月29日 ・ 場 所:広島国際会議場 ・ 参加者:約700人(うち約400人はオンラインによる参加) 7 国連軍縮フェローズの受入れ【市民局】(410 千円) 国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・プログラム」を支援するため、各国外交官等の研修生(フェローズ)を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を実施した。 ・ 期 間:令和5年9月30日～令和5年10月2日 ・ 参加者:26人 8 国連見学ツアーガイド等のヒロシマ研修【市民局】(4,488 千円) 常設の原爆展を開設している国連の見学ツアーガイド等を広島に招へいし、被爆の実相を理解するための研修を実施した。 ・ 期 間:令和5年11月27日～令和5年12月1日 ・ 参加者:6人 9 NPT再検討会議等への高校生派遣事業【市民局】(4,848 千円) NPT再検討会議第1回準備委員会に、核兵器廃絶の実現に向けて様々な平和活動に取り組んでいる高校生を派遣し、国連関係者に「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名を届けるとともに、ヒロシマのメッセージの発信等を行ってもらった。 ・ 派遣期間:令和5年7月29日～令和5年8月5日 ・ 派 遣 先:オーストリア・ウィーン市 ・ 派遣人数:高校生8人

項 目	説 明
	10 青少年国際平和未来会議の開催【こども未来局】(2,383 千円) 広島市の姉妹・友好都市等世界の国々の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深める会議をハノーバー市で開催した。 ・ 期 間：令和5年5月20日～令和5年5月29日（8泊10日） ・ 参 加：28人（7か国8都市）

項 目	説 明
平和意識の醸成 (第7条第2号関係)	1 中・高校生ピースクラブの開催【市民局】(874 千円) 中・高校生を対象に、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提供した。 ・ 期 間：令和5年5月～令和6年3月(全11回) ・ 場 所：平和記念資料館など ・ 参 加：中学生・高校生(40人) 2 若者による平和の誓いの集いの開催【市民局】(389 千円) 「ヒロシマの心」を次世代に継承するため、若者が主体となって企画・運営する平和の誓いの集い「Peace Night Hiroshima 2023 みんなのピースを夜空に込めて～今を大切に～」を開催し、若者による平和宣言などを発信した。 ・ 期 日：令和5年11月18日 ・ 場 所：平和記念公園 3 ヒロシマ・ピースフォーラムの開催【市民局】(309 千円) 広島市立大学と連携し、18歳以上で市内に在住又は通勤・通学している人を対象とする連続講座を開催した。 ・ 期 間：〔前期〕令和5年5月～令和5年7月(土曜日、全3回) 〔後期〕令和5年10月～令和5年12月(土曜日、全3回) ・ 場 所：平和記念資料館など ・ 参 加：〔前期〕104人 〔後期〕93人 4 折り鶴に託された思いを昇華させるための取組の推進【市民局】(2,421 千円) 「原爆の子の像」に国内外から捧げられた折り鶴を、折り鶴再生製品の作成等に取り組む市民団体等に配付し昇華の取組を推進した。 ・ 配付団体：32団体 ・ 受入数量：約10.6トン ・ 使 用 量：約7.3トン 5 折り鶴再生紙によるピースメッセージ事業【市民局】(7,800 千円) 平和記念資料館に修学旅行や平和学習で訪れた児童・生徒に対し、平和への思いを見学後も思い出してもらえるよう折り鶴再生製品(付箋)を配付した。 ・ 入館者数(修学旅行等)：34万4,418人 6 ジュニア向け平和学習用教材の作成【市民局】(1,797 千円) 平和記念資料館見学の事前学習や、家庭での平和教育用として、小学校3年生以下向けに分かりやすい平和学習用教材を作成した。 ・ 作成部数：4万部

項 目	説 明
	7 平和文化の普及促進【市民局】(9,299 千円) (1) 平和文化月間におけるイベントの開催 (7,328 千円) 平和文化月間の取組を広島広域都市圏内市町にも拡大し、様々な機関や団体との連携の下、多様なイベントを通じて「平和」への思いの共有につながる「文化」の振興を図った。 ・ 時 期：令和5年11月 ・ 場 所：平和記念資料館、広島国際会議場など 〔実施内容〕 ・ 広島の復興の歩みを振り返る音楽プログラム及び平和文化講演会 ・ 若い世代を中心とした平和の取組のステージ発表・展示発表 ・ 朗読を中心としたステージ発表など 計84事業 (2) 平和文化普及促進事業 (1,971 千円) 市民生活に平和文化が根付くよう、「平和文化の振興」に関する冊子の作成やワークショップなどを行った。 〔実施内容〕 ・ 被爆ピアノコンサート ・ 平和文化ワークショップ ・ 「平和文化の振興」に関する冊子の作成（日本語版（増刷）・英語版：各1万部） 8 平和教育ウェビナーの開催【市民局】(396 千円) 平和首長会議の国内外の加盟都市等の青少年が、被爆・戦争体験と平和への願いを受け継いで行う取組を発表し、意見交換するオンラインセミナーを開催した。 ・ 期 日：令和6年2月28日 9 こどもたちの平和文化活動支援事業【市民局】(1,496 千円) 小・中学生による多様な平和文化活動を奨励するため、学校活動として実施する絵画、習字、作文など平和をテーマとした創作活動に参加した児童・生徒に対して記念品を贈呈した。 10 スポーツを通じた平和意識の醸成【市民局】(100 千円) 広島東洋カープやサンフレッチェ広島の試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信した。 〔ピースナイター〕 ・ 期 日：令和5年8月6日 ・ 場 所：マツダスタジアム 〔ピースマッチ〕 ・ 期 日：令和5年8月13日 ・ 場 所：エディオンスタジアム広島 11 ひろしまこども平和の集い【市民局】(1,386 千円) 平和記念式典への参列等を目的に広島を訪れる青少年と広島の青少年が、被爆の実相を学ぶとともに、平和へのメッセージを発表するイベントを開催した。 ・ 期 日：令和5年8月6日 ・ 場 所：広島国際会議場 ・ 来場者：約1,200人

項 目	説 明
	12 ヒロシマ平和研究教育機構への負担金【企画総務局】(400 千円) 本市、広島大学、広島市立大学及び広島平和文化センターが連携して平和に関する研究、教育・人材育成、情報発信に取り組むため、4 者の参画により令和 6 年 1 月に設立した一般社団法人ヒロシマ平和研究教育機構の運営に要する経費を負担した。 13 「第 2 回ひろしま国際平和文化祭」の開催準備等【市民局】(44,808 千円) 市民や国内外から広島広域都市圏を訪れる人々が、多様で上質な音楽・芸術作品等に触れる機会を拡充し、平和への思いを共有する平和文化を振興するとともに、圏内の文化芸術活動の活性化、まちのにぎわいづくりや観光振興等を目的として、「第 2 回ひろしま国際平和文化祭」を開催するための準備事務と共に、周知のための P R 事業を下記のとおり実施した。 【主なイベント】 <音楽部門> ・ドラゴンクエストコンサート 日 時：令和 5 年 8 月 1 2 日 来場者：1, 3 0 4 人 <メディア芸術部門> ・BLUE GIANT トーク&ミニライブ付き上映会 日 時：令和 5 年 9 月 1 1 日 来場者：3 6 0 人 ・ひろしまアニメーションシーズン 2 0 2 2 受賞作品上映会&レジーナ・ペソア・ミニレクチャー付き特別上映会 日 時：令和 5 年 9 月 2 4 日 来場者：5 7 人 14 キョウチクトウ及び被爆アオギリ二世苗木育成【都市整備局】(990 千円) キョウチクトウ又は被爆アオギリ二世の苗木を修学旅行で広島を訪れた学校等に対し、希望に応じて配布した。 ・ キョウチクトウ：7 2 本 ・ 被爆アオギリ二世：3 5 2 本 15 平和教育プログラムに基づく平和学習の実施【教育委員会】(3,625 千円) 平成 2 5 年度より、児童生徒の発達段階に即した平和教育プログラムによる学習を推進するとともに、地域の被爆体験者を講師として招へいする「被爆体験を聴く会」や、平和記念日に焦点を当て、学校や地域の特色を生かして行う「平和を考える集い」等の開催など被爆体験を原点とする学習を進め、平和教育の充実を図った。 ・ 「平和教育プログラム」：全校実施（小・中・高） ・ 「被爆体験を聴く会」実施園・校数：1 9 園（幼）、1 0 1 校（小）、4 6 校（中）、4 校（高） ・ 「平和を考える集い」実施校数：1 4 1 校（小）、6 4 校（中）※広島中等教育学校を含む。

項 目	説 明
	16 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施【教育委員会】(311 千円) 市内の中学校に通学する２・３年生の中からメッセージ発信者（メッセンジャー）を３０人程度選出し、本市が進める平和教育、英語教育の成果を生かし、中学生自らが考えた英語による平和のメッセージを伝える活動を通して、中学生の平和への意識の高揚や英語力の向上を図った。 ・ 参加人数：１，４０８人 ・ メッセンジャー：３７人 ・ 研修期間：令和５年６月３日～令和５年８月６日 17 小・中・高校生によるヒロシマの継承と発信【教育委員会】(1,202 千円) 小学校６年生児童を対象とした平和についての意見を発表する「こどもピースサミット」や、アメリカ、オーストラリアにある学校とのやり取り等による交流を行う「平和への誓いアクションプログラム」などを実施し、平和について発信する機会の充実を図った。 ・ 「こどもピースサミット」参加人数：１万７３７人 ・ 「平和への誓いアクションプログラム」実施校数：２校（小）、３校（中） 18 広島・長崎市児童生徒平和のつどい【こども未来局】(337 千円) 両市の児童生徒が、平和学習を通じて平和意識の高揚と被爆体験の継承を図るつどいを本市で開催した。 ・ 期 間：令和５年６月２５日～令和５年９月１０日 ・ 参 加：広島市児童生徒２１人、長崎市児童生徒１５人

項 目	説 明
被爆体験の継承・伝承 その他 (第7条第3号及び第4号関係)	1 被爆建物等保存・継承の推進【市民局】(59,368千円) (1) 民有被爆建物等保存・継承事業補助(1,800千円) 被爆樹木の樹勢回復措置に係る費用について補助を行った。 ・ 被爆樹木：安田学園ソメイヨシノほか2件 (2) 被爆樹木モニタリング等事業(3,130千円) 樹木医による被爆樹木モニタリング調査を行うとともに、本市所有の被爆樹木について樹勢回復措置を行った。また、民有被爆樹木の所有者に対し診断結果の報告をするともに助言を行った。 〔モニタリング調査〕 ・ 調査対象 36本 ・ 調査結果 良：0本 やや不良：4本 不良：26本 著しく不良：5本 枯死寸前：0本 枯死：1本 〔樹勢回復措置〕 ・ シダレヤナギ(皆実小学校)ほか5本 (3) 被爆建物・被爆樹木めぐり(33千円) 被爆建物や被爆樹木を講師に解説してもらいながらめぐる見学ツアーを開催した。 〔被爆建物めぐり〕 令和5年11月19日開催 ・ コース：広大医学部医学資料館、旧日本通運出汐倉庫ほか1か所 ・ 参加人数：21人 〔被爆樹木めぐり〕 令和5年11月11日開催 ・ コース：鶴羽根神社、明星院ほか6か所 ・ 参加人数：27人 (4) G7広島サミットに合わせた被爆建物・被爆樹木めぐりの開催(3,212千円) サミットの開催を契機として、海外や市外等からの来訪者を対象に、被爆建物や被爆樹木をめぐる見学ツアーを開催した。 〔日本語対応事業〕 全5回開催 計86人参加 〔英語対応事業〕 全6回開催 計50人参加 (5) 旧中島地区被爆遺構の維持管理(6,466千円) 遺構のモニタリング及び建屋(保存・展示施設)の維持管理を行った。 (6) 旧中島地区被爆遺構の整備(38,125千円) 被爆遺構展示館の園路を整備した。 (7) 広島通信病院旧外来棟許容荷重調査その他(1,436千円) 広島通信病院旧外来棟の許容荷重調査等を行った。 (8) 原爆被災説明板等補修その他(5,166千円) 「平和の門」の照明機器・ガラスフィルムの取替え等を行った。

項 目	説 明
	2 旧日本銀行広島支店建物復原工事【市民局】(165,126 千円) 令和 5 年 9 月に復原工事が完了し、同年 1 1 月から暫定活用を再開した。 3 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化【市民局】(19,258 千円) 平和記念資料館本館の展示資料の入替えを実施したほか、所蔵フィルムの高精細デジタル化を始めとする保存措置を講じた。また、被爆者証言ビデオのテキストデータ化や多言語化を進め、順次ホームページでの公開や YouTube での配信を行った。 4 被爆資料の収集等の強化【市民局】(5,893 千円) 被爆者やその遺族を訪問し、資料の寄贈を受けるとともに、国内外から受領・収集した資料等について、資料の精査及び調査・分析を行った。 5 平和記念資料館の発信力の強化【市民局】(16,352 千円) 国外に向けて被爆の実相を伝えるため、平和記念資料館のホームページの多言語化（中国語及びスペイン語）を進めた。 また、広島通信病院旧外来棟について、平和記念資料館の附属展示施設に位置付けることとし、展示実施設計を行った。 6 青少年を中心とする平和文化イベントの開催【市民局】(966 千円) 被爆の記憶の風化を防ぐとともに、世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を訴えるため、青少年による平和に関するメッセージを中心とした平和文化イベントを開催した。 ・ 期 日：令和 5 年 8 月 6 日 ・ 場 所：広島国際会議場 7 平和学習講座【市民局】(331 千円) 講師を広島市内外の小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施するとともに、ウェブ会議システムを利用した講座を実施した。 ・ 実施回数：9 5 回 8 ユースピースボランティア事業【市民局】(413 千円) 平和記念公園を訪れる外国人に対して被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援した。 ・ ボランティア登録者数：7 6 人 9 広島平和文化センター事業助成【市民局】(285,844 千円) 公益財団法人広島平和文化センターが実施するヒロシマピースボランティアなどの事業や法人の運営に必要な人件費等への助成を行った。 10 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業【市民局】(2,004 千円) 平和記念資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質の向上を図るための研修を実施した。 ・ 実施内容：総合研修（5 回）、英語研修（1 5 2 回）、 人権研修（1 回）、パソコン研修（2 回） ・ 参加人数：延べ 6 2 6 人

項 目	説 明
	11 海外へのオンライン被爆体験証言【市民局】(410 千円) ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行った。 ・ 実施回数：8 か国 13 都市・15 回 ・ 聴講者数：1, 122 人 12 修学旅行生への被爆体験講話等【市民局】(8,742 千円) 被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオ等の上映を行った。 ・ 実施件数：1, 845 件 ・ 参加人数：11 万 3, 463 人 13 被爆体験伝承者等による伝承講話の実施【市民局】(6,709 千円) 平和記念資料館において伝承講話を定時開催したほか、市内会場への派遣及びウェブ会議システムを利用した伝承講話を実施した。 ・ 実施件数：1, 798 件 ・ 参加人数：4 万 4, 733 人 14 被爆体験伝承者等の養成【市民局】(1,723 千円) 被爆体験伝承者としての活動を希望する者(研修生)に対し、進捗状況に応じた研修を実施するなど被爆体験伝承者の養成に取り組むとともに、新たな被爆体験の掘り起こしのため、家族伝承者の養成にも取り組んだ。令和5年度は、被爆体験伝承者33人、家族伝承者26人が研修を修了した。 ・ 研 修 生：被爆体験伝承者195人(令和5年度応募者：62人) 家 族 伝 承 者 38人(令和5年度応募者：21人) ・ 研修期間：2年 15 原爆ドーム保存事業等基金への積立て【市民局】(142,495 千円) 原爆ドームの保存事業のほか被爆の実相を「守り、広め、伝える」事業の財源とするため、原爆ドーム保存事業寄附金、平和国際交流費寄附金、「ヒロシマから世界へ」ふるさと納税寄附金、平和記念資料館観覧料改定に係る増収相当額等を基金に積み立てた。 16 「ヒロシマから世界へ」ふるさと納税の推進【市民局】(102 千円) 平和の推進を目的として寄附した方に対し「被爆体験証言を収録したDVD」、「カープ坊やをデザインした折り鶴再生製品」などを贈呈品とするふるさと納税を推進した。 ・ 申出件数：23 件 17 平和記念式典の開催【市民局・健康福祉局】(118,055 千円) 新型コロナウイルス感染症の法的な位置付けが変更されたことを踏まえ、規模縮小前の例年並みの規模で開催した。 また、式典の挙行に適した環境の確保について実効性のある対策の検討を行うに当たり、参列者向けのアンケート調査及び拡声機の音量測定を実施し、その結果を踏まえ、デモ行進の実施団体との協議を通じて、令和6年の式典の挙行に適した環境の確保に向けた合意とその遵守を担保する方策を検討した。 ・ 参列者数：約5万人

項 目	説 明
	18 原爆被爆者動態調査【健康福祉局】(9,438 千円) 原爆による人的被害の実態及び被爆者世帯の被害状況を明らかにするために、本市が保有する被爆者情報に、新たに判明した原爆死没者や被爆者健康手帳交付者情報などを整理・統合化した。 19 史跡原爆ドームの保存・継承【市民局】(1,797 千円) 特別史跡の指定に向けて総括報告書の作成を進めた。 20 原爆ドームの保存整備【都市整備局】(749 千円) 健全度調査について、史跡原爆ドーム保存技術指導委員会の助言・指導により、従来の足場設置による調査からドローン等を用いた調査に代替する方針を決定した。 21 本川小学校の平和資料館運営【教育委員会】(3,448 千円) 運営管理人を資料館に配置し、被爆した校舎や遺物等、展示資料の管理や来館者対応等を行うことにより、被爆体験を継承する施設としての充実を図った。 ・ 年間来館者数：2 万 5, 1 2 7 人 22 袋町小学校の平和資料館運営【教育委員会】(3,322 千円) 運営管理人を資料館に配置し、被爆した校舎や遺物等、展示資料の管理や来館者対応等を行うことにより、被爆体験を継承する施設としての充実を図った。 ・ 年間来館者数：2 万 7, 7 5 2 人 23 比治山公園「平和の丘」に係る取組の推進【企画総務局】(97,923 千円) エントランス広場の整備が完了したほか、「平和へのメッセージ」を記す碑の設置などを行った。 24 国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業【市民局】(417 千円) 広島復興プロセスに関する教材を印刷・配布し、県・市が主催する研修・講座等で活用した。

項 目	説 明
	25 平和記念資料館管理運営及び施設整備【市民局】(406,823 千円) 平和記念資料館の施設の管理運営に加え、被爆の実相・平和に関する資料の収集、保管、展示及び供用、平和学習や被爆体験の継承等平和を考える場の提供等を行った。 このほか、被爆の実相をより深く理解してもらうために、原爆被災に関する調査・研究やそれに基づく企画展を開催するとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う心をより多くの来館者に届けるため、バスガイド等観光事業従事者のための研修会を開催した。 また、資料館東館の非常放送設備補修を行った。 〔入館者数〕 198万1,782人 〔ホール利用件数〕 486件 〔企画展〕 ・ 「広島戦災児育成所―子どもたちと山下義信」 期 間：令和5年3月24日～令和5年9月11日 ・ 「新着資料展―令和3年度寄贈資料」 期 間：令和5年9月14日～令和6年2月27日 ・ 「ともだちの記憶」 期 間：令和6年3月1日～令和6年9月10日